内郷小学校校歌について

内郷小学校は、明治４１年（１９０８年）４月１日に、飯野校と湖南校が合併して「内郷 尋常小学校」として、現在地に創立されました。昭和１２年（１９３７年）町村合併により、内郷村は佐倉町となり、昭和２２年（１９４７年）には、「佐倉町立佐倉第二小学校」と改称されました。昭和５４年（１９７９年）に、「佐倉市立内郷小学校」となり現在に至っています。百年以上の歴史を持つ学校ではありますが、校歌が制定されたのは、意外にも最近で、この年の３月です。校歌の制定は、当時の地域の人々や子供たちの念願であったので、校舎及び体育館の新築、運動場の拡張を記念して、校歌が制定された時の喜びは、大変なことであったでしょう。作曲は、千葉大学名誉教授の寺内昭先生です。寺内先生は、市内の他校でも校歌の作曲をされています。作詞者の校歌に対する思いを受け、また、末永く重ねて愛唱される校歌となるように、子供たちにふさわしいリズムや旋律で表現することに努めていただいたことが、 当時の資料「校歌制定のしおり」から窺えます。作詞は、山下豊氏です。山下氏は、「創立百周年記念誌」の中で、作詞に対する思いを次のように記されています。「私は、この土地に生まれ、この学校で学んだ一人ですので内郷小学校をこのうえなく愛しています。ですから私はどうしても内郷地区全ての名において、本校の「真の姿」を校歌に詞いあげなければならないと強く心に感じました。」そのために、山下氏は、「本校の真の姿」を世界史的視座に立って詩い上げることを責務として、ギリシアやインド、中国などの世界の歌や詩、日本の詩歌を勉強されました。そうして、内郷地区の豊かな自然（環境）・藩校から受け継がれてきた、進んだ考え（歴史）・子供たちの歩むべき道筋（理想）を熟考し、書きあげていただいた詞が、現在の内郷小学校校歌になっています。 内郷小学校は、親子そろって本校で学んだ家庭が多く、中には、３世代目、４世代目が学んでいる家庭もあります。山下豊氏のひ孫にあたるお子さんも現在在籍しています。様々な行事の中で、または、お客様が来校したときや校外学習のバスの中等で、子供たちは生き生きと元気な歌声を響かせて、校歌を歌っています。校歌制定に携わっていただいた方々の思いを引き継ぎ、これからも大切に歌い継いでいきたいと思います。 （令和４年12月）

内郷小学校校歌と通解

1　緑ときわに　内郷の
　湖南の丘に　そびえたつ
　静き学びや　空澄みて
　希望はたかき　わが大志

今私たちの生活している内郷地区は、いつまでもいつまでも変わることのない美しい自然に囲まれています。その昔印旛沼でありました南に位置する丘の上の静かな環境のただなかに校舎はくっきりと建っています。見上げると大空も澄み切っています。その澄み切った大空のようにそこで学ぶすべての人たちはこれから先に望みをかけ、それぞれ大きな志を立てています。

2　歴史は古き　藩校の
　学びてここに　百余年
　文化の園を　うけつぎて
　すすむ世紀の　あさぼらけ

また、内郷小学校のうつりかわりは遠く藩校（慶応元年７月６日開学）にさかのぼりますが、それから今まで１２０年の歳月がたっています。藩校はもちろんですが、その後の学校でお勉強した大勢の大人の人達が世の中をよくするために大いに学び立派に働いてくださいました。私達は新しい知識を取り入れて行く心を受け継ぎ時代をよくするために頑張らなければならないと思います。それは、文化の発展をうながし次の世の中をつくる夜明けでもありましょう。

3　仰ぐまことの　ことわりは
　世界をてらす　みちしるべ
　英知の宝庫　つみあげて
　たゆまぬわざに　ほまれあれ

仰ぎ見る太陽のように物事の正しい筋道をわきまえることは人間として最も大切な事柄であると思います。それはこの地球上に住むすべての人々の歩む道すじを示すものでありましょう。人類が何千年もかかって築きあげてきたすぐれた知恵の宝庫で大いに頭脳をみがき心がゆるむことなく人として成すべき道にはげみ物事を立派に仕上げ多くの人々から祝福されるようになってもらいたいものです。

（創立百周年記念誌より）